

令和4年度東部地区道徳教育研究協議会

春日部市立飯沼中学校

【A部会（1学年）】

主 題 名 友の幸せを願う
内容項目 B 友情、信頼
教 材 名 「最後の思い出」
(彩の国の道徳「未来に生きる」)



アンケートを活用した
問題意識をもたせる導入



グループでの話し合い活動



道徳的価値について考えを深める場面

1 各グループからの発表（ワークショップ型分科会）

- 板書に登場人物の相関図を提示していたので、とてもわかりやすく、話し合いを進めていく上での手掛かりとなった。
- 友達との在り方について考えるときには、まず個人で考える時間を適切に取っていたことで、じっくりと生き方について考えることができた。
- 3、4人グループの小集団の話し合い活動は効果的であり、生徒は様々な考え方に触れることができた。また、ホワイトボードに書いたグループの考えを発表し合うだけでなく、他のグループの考えに対して質問する等の工夫をしていた点がよかった。タブレット端末を活用して意見を共有してもよい。
- 「友達を幸せにするとは、どういうことか？」というアンケートを取ってみてもおもしろい。
- 発問を精選し、焦点化して話し合いを進めていきたい。相手方の思いについて掘り下げていくと、さらに話し合いが深まったと思う。



2 指導講評

- 発問の聞き方一つで、生徒から様々な反応が返ってくるため、発問を精選することが大切である。そのためにも、教師は学習指導要領をよく読んで内容項目を理解し、教材吟味を丁寧に行う必要がある。
- 発問例として、①「やる気に満ち溢れている真奈たちを見て、みんなはどのように感じるだろうか。」②「真奈たちの進めるお別れ会の準備がうまくいかないのはなぜだろうか。」③「潤子のために真奈が大切にすべきだったのは何だろうか。」④「この後、真奈はどうしていくだろうか。」も考えられる。また、価値そのものを問う発問として、「真の友情とはどんなものだろうか。」と問うことも考えられる。自分事として考えられるようにしたい。
- 本時の授業で見られたように、生徒に疑問をもたせることも大切である。また、学習指導要領に記載してあるが、話し合いは何のためにするのかということを確認してもらいたい。
- ICTの活用は、今までの取組を生かしながら、効果的なものを互いに共有していくとよい。

